

マラウイ体験記

〈中編〉

マラウイには11月から4月にかけて雨期がある。この恵みの雨でマラウイ人の主食トウモロコシは人間の背丈を軽く超える。もちろん雑草も元気良く伸びる。

ある日、目が覚めると誰かがうちの家の周りの草を刈っている音。私は草刈りがまを買っていなかったの、雑草は伸び放題だった。カーテンのすき間から恐る恐る様子を見ると、隣の家のおっちゃん。「うわっ、刈ってくれている。お礼どうしよう」ここはアフリカのマラウイ。お礼について何かやり方があるに違いない。同僚の近所のおばちゃんの家を駆けつけた。おばちゃんは驚くべき風習を話してくれた。「お礼をまず、言いなさい。物を渡す必要は決まっていなくても、どうしても渡さないと気が済まないなら2、3カ月たってから砂糖でも1パック持つて

いったら？」と。「ええ!? そんなに遅かったら隣のおっちゃんは草刈りのお礼ってことを忘れてしまうやん」するとおばちゃんは、「お礼として物を渡したら、『この人は僕の親切を受け止めてくれなかった』となるわ。どうしても返したければ相手が忘れたころに渡せばいいのよ」。そう教えてくれた。

日本では、相手が忘れないうちに『あれのお礼はこれ』と、お互い貸し借りのないのがすっきりして良いと感じる。ここでは、物で返したら相手の親切をはねつけることになるのだ!と驚いた。

家に戻って「おっちゃん、ありがとう」とお礼を言った。しかし、まだ体の中に借りが残って居心地が悪い。そのうち、自分ができることがあれば誰にでも惜しみなく親切にしてあげたい気分が変わった。おっちゃんの親切で自分の体が満ちていたからだろう。



渋谷 明香里 さん

美山町内久保出身。

2006年10月～2008年10月までの2年間、青年海外協力隊としてアフリカのマラウイ共和国へ。現地の生活を通して体験したことをつづけていただきました。

マラウイ共和国

首都:リロングウェ
面積:11.8万平方km(北海道と九州を合わせたほどの面積)
人口:約1,320万人(2006年、世界銀行統計)



環・境・市・民

～環境にやさしい生活始めましょう～



—第6回—

さあ始めよう!
家庭でできる温暖化対策

大事に使おう

限りある緑の資源

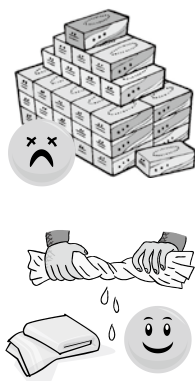
毎日当たり前のように使っているティッシュペーパーやトイレトーパー。鼻をかんだり、汚れをふき取ったりと、私たちの生活になくてはならないものです。

これらは木材パルプや古紙から作られています。ご存じのとおり、もともとはすべて木を原料としています。

日本は、ティッシュペーパーの大量消費国であり、1人当たり年間約4キログラムのティッシュペーパー、約7キログラムの

トイレトーパーを使っていると知られていきます。以前は、汚れをふく際も、ふきんを利用して繰り返し洗って使っていました。今は使い捨てのペーパータオルなどが安易に使われています。コピー用紙や新聞紙、雑誌はリサイクルできますが、こうしたペーパーは使い捨てのため、リサイクルができません。だから大事に使わないともったいない!

・商品を買う際には、環境に配慮したものを選ぶ
・机をふく際はふきんを使う
・手ふきの紙ではなくハンカチを使う



一人一人のちょっとした心掛けで、限りある資源の消費量を減らすことができます。日々使うものだからこそ、気を遣いたいですね。

(環境課)